



アマチュアオーケストラ

新交響楽団 第253回演奏会

The New Symphony Orchestra – 253rd Concert

指揮 寺岡 清高
TERAOKA Kiyotaka, conductor

ドヴォルザーク

Antonín DVOŘÁK (1841-1904)

序曲三部作『自然と人生と愛』

Trilogy of Concert Overtures "Příroda, Život a láska" (Nature, Life and Love)

「自然の中で」 V přírodě (In Nature's Realm), Op. 91, B.168

「謝肉祭」 Karneval (Carnival), Op. 92, B.169

「オセロ」 Othello, Op. 93, B.170

シュミット

Franz SCHMIDT (1874-1939)

交響曲第3番イ長調

Symphony No. 3 in A major, 1928

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

13:00 開場

2021年4月18日 (日) 東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演

Sunday, April 18, 2021, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席：¥3,000 A席：¥2,000 (全席指定)

チケットのお申し込み：新交響楽団ホームページ <http://www.shinkyo.com/>

チケットのお申し込み・お問い合わせ：コンサートイマジン 03(3235)3777 *10:00～18:00 (日曜・祝日を除く)

- ・客席内でのソーシャル・ディスタンス確保のため、ご購入できるお座席を一部制限しております。
- ・感染予防及び公演当日の混雑緩和のため、チケットの事前予約・引き取り・購入をおすすめいたします。

*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください (予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyo.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

自然を愛した作曲家ドヴォルザーク

今回のコンサートでは、チェコの大作曲家ドヴォルザークの演奏会用序曲を取り上げます。元々序曲とは劇音楽のオープニングに演奏され、劇全体のあらすじや雰囲気や伝わるように作られたものですが、それが劇用でなくそれ自体で完結するものが演奏会用序曲で、多くは物語性や詩的情緒があります。

国際的に評価されるようになったドヴォルザークは、念願だった田舎の別荘をプラハ近郊のヴィソカーに持ち、自然に親しみ村の人々と交流をしました。そこで作曲されたのが序曲三部作『自然と人生と愛』です。本来3曲連続で演奏することを意図して書かれましたが、「謝肉祭」は比較的演奏されることが多いものの、まとめて演奏される機会はあまりありません。

人生にあたるのが活気あふれる人々の生活が表現された序曲「謝肉祭」、愛にあたるのが感情の紆余曲折が表現された序曲「オセロ」で、どちらにも序曲「自然の中で」のテーマが用いられています。この作品が後の一連の交響詩（新響は2019年10月に演奏）の作曲につながっていきました。

後期ロマン派最後のシンフォニスト、フランツ・シュミット

ドヴォルザークの時代、チェコはオーストリア＝ハンガリー帝国の支配下にありました。その首都ウィーンでは、新ウィーン楽派と呼ばれる調性のない前衛的なスタイルが台頭する一方、シェーンベルクと同じ歳のフランツ・シュミットは、後期ロマン派のスタイルを守った作曲家でした。

シュミットは、マーラーが音楽監督をしていた時のウィーン宮廷歌劇場のチェロ奏者、ピアノの名手でもあり、ウィーン音楽アカデミーの院長まで務めました。作曲家としては4つの交響曲やオペラなどを残し、それらはブルックナーやブラームスといった偉大な先人の伝統を引き継ぎつつ、モダンで独創的な作風となっています。

ウィーンゆかりの作曲家であるシューベルト没後100年の作曲コンクールに応募するために書かれたのが交響曲第3番です。巨大編成で厚い響きの作品が多いシュミットですが、この曲はシューベルトを意識してか、編成が小さく穏やかで、オルガン的な響きのする美しい曲です。

どうぞお楽しみに！（H.O.）

ご来場いただくお客様へ（新型コロナウイルス感染症対策）

当日はご自宅で検温していただき、マスク着用にてご来場ください。37.5℃以上の発熱、咳・のどの痛み・倦怠感等の体調不良がある方、過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国・地域への訪問歴がある方は、ご来場をお控えください。

会場入り口でご来場の皆様の体温を測定いたします。会場内ではマスク着用し、咳エチケットやこまめな手洗い、手指消毒をお願いします。ほかの人との距離できるだけ空けるようにし、大きな声での会話は控えください。

クロークサービスとドリンクコーナーは休止していますのでご注意ください。また出演者への贈り物はお控えください。

体調不良等が認められる場合は、ご入場をお断りする場合があります。なお、体調に不安がありご来場をお控えいただく場

合や、当日の検温の結果入場いただけない場合は、チケット代を払い戻します。

詳しくはホームページにて注意事項や公演の最新情報をご確認ください。これらのお願ひ事項につきましては、状況により変更になる場合がありますので、ご了承ください。

今後の演奏会予定

<第254回演奏会>

2021年7月4日（日）14時 東京芸術劇場

指揮 山下 一史 曲目 ブラームス/交響曲第2番 他

<第255回演奏会>

2021年10月31日（日）14時 東京芸術劇場

指揮・曲目 未定

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・芥川也寸志（1925-89）の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展（1976年にサントリー音楽賞を受賞）、ショスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ（山田一雄指揮、1979～90）、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏（石井眞木指揮、1993）、伊福部昭米寿記念演奏会（2002）、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演（高関健指揮、2004）、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演（飯守泰次郎指揮、2006）など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ～良いお席を安く～

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券（どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能）を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座：00130-0-28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail：shinkyo@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時～9時、東京芸術劇場（池袋）、クラシック・スペース☆100（大久保）他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、施設内の託児室をご利用いただけます。土日祝日を除く公演日一週間前までにご予約ください。3ヶ月～1歳2,560円、2歳～6歳児2,160円。お申込み・お問合せ：HITOWA キャリアサポート株式会社わらべうた電話0120-415-306（平日9:00～17:00、土日祝日休み）